

日遊協「依存予防ステッカー」配布

10月に1ホール12枚トイレ、精算機などに貼付を

日遊協は9月20日の第3回定例理事会で、「パチンコ・パチスロ依存予防ステッカー」をホール会員の全営業所に漏れなく貼付することを決めた。過度な遊技にならないようファンへの注意喚起が目的。ステッカーはホールへの協力要請の文書と一緒に、10月以降、1ホールに12枚が配布される。

ステッカーは縦6cm、横12cmで、スマートフォンのおおきさ。上半分に「ぱちんこは適度に楽しむ遊びです。」のメインフレーズ、下半分にリカバリサポート・ネットワーク(RSN)の相談窓口の電話番号が載っている。貼付場所はトイレ個室、精算機、計数機、出入り口等で、とくにRSNによる「相談者は人目につかない場所やトイレから電話してくることが多い」とのことから、トイレには必ず貼るように要請している。ステッカーは今回、3000シート(1シート6枚)が印刷された。当初の配付にあたっては日遊協が経

費を負担。追加の場合は有償とする。

日遊協としては、ステッカーを10月初旬に配付し、11月1日以降はホール会員の営業所すべてで貼付済みの状態にしたいとしている。また、ステッカーの貼付以外に、チラシの帯広告にもメインフレーズを入れることや、従来からのRSNポスターの店内掲示にも協力を要請していく。既にメインフレーズを壁面たれ幕に大々的に掲示したホールもある。

小冊子は内容詰める

依存問題については、警察からの度重なる「のめり込み対策の要請」をはじめ、パチンコ業界の対策と動向が社会的に注目されている。日遊協はこれまで、相談機関のRSN支援を始め様々な局面で活動を行なってきたが、8月に依存問題のワーキングチームを立ち上げ、当面、啓発ティッシュ、啓発ステッカー、広報小冊子を検討

壁面5階分のたれ幕に「パチンコ、スロットは、適度に楽しむ遊びです」のフレーズが……(エスパス日拓新宿歌舞伎町店)

ステッカーはトイレの個室に貼られる



精算機に貼られたステッカー



していくことを決めた。啓発ティッシュについては都遊協など全日遊連の関東一帯で配られ、日遊協でもそれ以外の全国に配付し、店内各所に置いてお客様に提供する準備を進めている。小冊子については11月ごろの作成を目標に、篠原菊紀諏訪東京理科大学教授(日遊協理事)を中心に内容を検討中。小冊子では、パチンコの負の側面だけでなく、脳の老化防止やスト

レス発散などの効果にも触れ、プラス・マイナス両面を打ち出したとしている。また、今後はこうした取組みをホール関係5団体、さらにメーカー等も含めた業界全体で決議して行きたいとしている。

ぱちんこは適度に楽しむ遊びです。

ぱちんこ依存は、ひとりで悩まずお電話を
相談窓口 ☎050-3541-6420
平日 10:00~16:00

特設事務局 代表人 リカバリサポート・ネットワーク

日遊協の依存予防ステッカー

「法人化」来年1月メドに「社団」か「公益」の最終的結論を

新公益法人制度に基づいて、日遊協が現行の社団法人（特例民法法人）から一般社団法人または公益社団法人へ移行するための選択期限が迫っている。3月の定例理事会では、時間的な制約を考慮してまず一般社団法人を取得し、その上で公益社団法人への移行を検討、可能なら改めて公益法人化を目指す方向が確認されたが、業界に公益法人が存在することが望ましいという声が依然としてあるため、加藤義久監事から「公益法人化実現のための提案」が出され、これをたたき台に議論した。

提案では、現状の事業費率は公

益目的35%、共益目的47%、管理費18%だが、公益目的事業比率が50%に達しないと公益法人の申請ができないとして、50%にするために、①新たな公益事業を立ち上げるか他団体の公益事業を集約する ②共益事業費や管理費を削減して相対的に公益事業比率を上げる——の2つの方法が挙げられた。しかし、特例民法法人の期限が来年11月に迫っている中で、①の新たな公益事業立ち上げや他団体の公益事業の集約は手続的にも不可能な状況であり、②については事業費が最大の取扱主任者講習運営費の処遇が議論となったが、講習試験は日遊協に対する信用という形で警察庁から委託された経緯があつて他団体に移すことは極めて難しいこと、仮に移せたとして

も収入減となり、組織の運営に大きく影響すること等が指摘された。そのため、とりあえず現状のまま公益認定等委員会に相談し、手直しに関する技術的なアドバイスを受けながら公益法人への可能性を探り、来年1月の定例理事会までに結果を報告して最終的な判断をすることになった。

「広告・宣伝」問題が進捗

警察庁の7月20日付通知「ぱちんこ営業における広告、宣伝等の適正化の徹底について」以降の一連の業界の動きがまとめられて報告された。業界誌（紙）に対してホール関係5団体が合同記者会見を開き、業界の健全化のために理解と協力を要請した。日遊協も独自にファン雑誌に対する説明会で同様の協力要請をした。「総付景品等の提供に関するガイドライン」に来店ポイントを加えた改正案に5団体が合意した。子どもの車内放置事故防止対策で5団体が声明を發した。（11、12、13、14ページに関連記事）

「第3回パチンコ・パチスロ エッセー・絵手紙コンクール」の概要が報告され、テーマ（エッセー、絵手紙共通）として、①パチンコ・パチスロ私の楽しみ方 ②パチンコ・パチスロへのメッセージ——が承認された。募集期間は11月1日から来年2月末。入賞者の発表は来年6月6日（日遊協通常総会）が予定されている。

新規に正会員1社、賛助会員4社の入会が承認された。9月20日現在、正会員345社（ホール114、機械69、販社115、景品10、その他37）、賛助会員61社、計406社と団体会員1（同友会）となった。（19ページに新規入会会員）

小山修氏が「経済」で講演

秋季セミナーで、（社）日米協会理事、小山修氏（前・株三井物産戦略研究所代表取締役社長）が「世界経済の現状と日本の方向性」と題して講演した。小山氏は、世界経済展望として、欧州経済危機の深刻化、中国経済の失速、先進国主導から後進国主導への変化などを解析し、日本の再立国のために、真に豊かな「生活大国」としての存在



講演する小山修氏



定例理事会であいさつする深谷会長(立っている)

懇親会来賓に11団体代表

感など、3つの方向性を強調した。最後に懇親会が開かれ、7つのテーブルに分かれて欲談した。セミナーと懇親会には理事、監事、特別参与など日遊協関係者に加えて、青松英和全日遊連理事長、里見治日電協理事長、中村昌勇全商協会長ら他団体の代表者、幹部が来賓で出席した。その他のおもな来賓は次の通り。(順不同・敬称略)

金本正浩(福岡県遊協理事長)▽森孝輝(佐賀同)▽松尾道彦(長崎同)▽金在哲(大分同)▽山口裕道(宮崎同)▽西川明寛(鹿児島同)▽比嘉良幸(沖縄同)▽原田亨(日電協常務理事)▽恵良道信(PSA専務理事)



懇親会であいさつする、青松全日遊連理事長

日遊協支部運営会議 「魅力」をよりPR 横断的組織、豊富な情報など

日遊協支部運営会議が9月27日、東京・晴海の晴海グランドホテルで開かれ、深谷会長以下各支部長ら9人が出席して支部活動の報告を行い、課題を協議した。

▼会員を守り、増やすには、日遊協の魅力を打ち出す必要があり、横断的組織としての交流、行政関連など情報の提供、社会貢献のイニシアチブなどが大切であり、実際に効果もあげている。

▼全日遊連、販社などとの共同行事を打ち出すことよって日遊協の評価が高まり、実績をあげているケースもある。

▼逆に、日遊協の存在についての意義がなかなか理解されず、会員を大幅に増やせない状況がある。

中古機流通PT

9月11日
本部会議室
メンバー等14人

「主任者」の付則も修正 「点検補助員」新設も討議

前回のPT(7月9日)で「遊技機取扱主任者に関する規程の一部修正案」が事務局側から説明されたが、これに関連して規程の付則について追加修正案が提示された。修正の理由は、遊技機取扱主任者の新規講習・試験を受けるとき、会社や本人の事情から地元以外で受講・受験をせざるを得ない場合があるが、その後、更新時にもタスキミングが合わずに地元以外で受けざるをえなくなり、これを繰り返して行なうことは本人に大きな負担を強いるので、この状態を救済し、なるべく本人の地元で更新講習・試験を受けられるようにするためとなっている。今回の追加修正は、規程の付則についても同様の目的の文章調整を行ったもの。

2010年6月にスタートした新しい中古機流通制度によって、ホール管理者の負担が増加したことから、ホールに中古機の納品に立ち会う際の「点検補助員」を新

景品関連促進PT

9月11日
本部会議室
メンバー等8人

「店外オンライン」を改名

チーム名を「店外オンラインPT」から「景品関連促進PT」に変更した。コンビニ商品を景品に導入する目的が進められている、ファミリーマートとの勉強会の経過が報告された。同じく流通業とのコラボレーションの可能性を模索して、「100円ショップ」の草分けで知られるダイソー(株)大創産業)の担当者出席を求め、意見を交換した。

風営法PT

9月18日
本部会議室
メンバー等8人

来店ポイントで報告

来店ポイントを対象に加えて改正された「総付景品等の提供に関するガイドライン」の内容が説明された。付随する解説としての「ガイドラインの基本的な考え方」の中で、来店ポイントに関連して追加・検討中の案文が説明された。

「フェスタ」改善に意欲

委員対象にアンケート

9月25日
本部会議室
出席委員等13人

さる6月1、2日に東京・秋葉原で開かれた「パチンコ&パチスロフェスタ2012」について、遊技機委員会委員を対象にアンケートを取り、意見・感想などを聞いた。同委員会は来年2月ごろに「遊技機アワード」、再来年(2014年)2月ごろに「遊技機アワード」等と組み合わせ「パチンコ&パチスロフェスタ」を実施する方向で検討しており、そのための改善点を探ったもの。

「遊技機アワード」については、



「アワード」や「フェスタ」についての、委員のアンケート結果を検討する遊技機委員会

「内容を改善したい」と「現状のままでよい」とする意見が半々だったが、選考基準や選考の透明性、受賞に納得してもらおうような位置付け等に工夫の声が出ていた。「フェスタ」については「内容を改善したい」とする意見が大半を占めた。「目的が曖昧」「ファンの声をもっと機械に反映させたい」「コンセプト機の開発期間にゆとりがほしい」「コンセプト機を意味あるものにした」といった意見が出ていた。

新しい事業として、業界横断的な日遊協の特徴を生かし、メールを使ってホールとメーカーが機械についての意見を出し合う仕組みが検討された。

広報調査委員会

9月4日
本部会議室
出席委員等8人

賞品、審査日程など決定

第3回エッセー・絵手紙C

「第3回パチンコ・パチスロエッセー・絵手紙コンクール」で



エッセー・絵手紙コンクール等を審議した広報調査委員会

の賞品、日程等について協議した。

賞品については、エッセー部門は最優秀賞(1名)が表彰盾と旅行券30万円分、優秀賞(2名)が賞状と旅行券10万円分、絵手紙部門は最優秀賞(1名)が表彰皿と旅行券15万円分、優秀賞(2名)が賞状と旅行券5万円分(前回と同じとなった。佳作(両部門10名ずつ)については、前はエッセーが商品券2万円分、絵手紙が同1万円分だったが、エッセーの商品券も1万円分とし、減額で浮いた10万円を利用して参加者全員に作品集を送る案が検討された。

今後の日程は前回同様、10月中旬にポスターを完成させ、11月1日から募集開始、来年2月末日締め切り、5月に最終審査、6月6日の日遊協通常総会で上位入選者

表彰と全体の結果発表を確認した。年1回実施しているファンアンケートの調査項目、日程等を検討した。日程については、10月中旬に内容確定、12月上旬調査開始、1月上旬集計、2月上旬報告書作成——の流れが事務局側から提案された。

日遊協ホームページ上での業界の調査データ集約について検討した。

社会貢献・環境対策委員会

9月14日
本部会議室
出席委員等11人

「自然塾」詳細を詰める

埼玉県嵐山町の共生の森で10月27日に行う「子ども自然塾」の詳細を協議した。当日の植樹は、クリ、カキ、ウメ、ビワ、サクラランボ、クスギ、木苺等が候補に上がった。当日のスケジュールとして、午前中は植林体験、展望台までの散策・自然探索、「森の樹木博士」認定テスト。昼食後は森の工作教室、樹木博士認定式、ピング大会となっている。

遊技産業でのさらなる省エネと環境負荷低減のための人材育成策として、「ECOマイスター検定制度」の創設が検討され、具体案を協議した。

東京都・関東支部ボランティア隊第5陣

特殊なロープ結びと格闘 継続的な支援の必要性を痛感

▽日時 8月29日～31日

▽場所 宮城県本吉郡南三陸町

▽隊員 隊長・岡田亘(株千歳観光)、副隊長・大曾根真一、隊員・秋元敦、加勢奨、山田光紀、中川(株千歳観光)、出口豪人(株安田屋)

▽作業 ワカメ養殖の仕掛け作り、漁の手伝い

初日の午前中はワカメの仕掛け作り。2本のロープを30cm間隔で別の青いロープに結んでいく作業でした。全長が200mあるロープを細かい間隔で結ぶ作業は、結び方も特殊で覚えるのに時間がかかり、また炎天下での作業になったため相当な時間とエネルギーを費やしましたが、隊員一丸となって作業に励みました。昼食後は、船で沖に仕掛けてあった仕掛けを引き上げる漁のお手伝い。主にタコを捕るための漁との事でしたが、この日はアイナメが多く捕れました。こちらの方は震災直後から現在に至るまで町の復興に尽力されており、その反面ご自分の養殖業

が出遅れた形となってしまったみたいで今回我々が派遣されたとお聞きしました。

2日目も前日同様のワカメの仕掛け作り。前日に習得していたので、この日は隊員のみで作業することが出来たので少しはお役に立てたのではないかと感じています。短い期間なので、この程度ではとお聞きしたところ「まず、来てくれるだけで嬉しいし、作業まで手伝っ

東京都・関東支部ボランティア隊第6陣

猛暑に細かい瓦礫分別 長期滞在の人達に感銘

▽日時 9月5日～7日

▽場所 宮城県本吉郡南三陸町

▽隊員 隊長・山本利和(株日進)、副隊長・土井正行(株千歳観光)、隊員 門傳誠、富澤正彦、渡辺稔之(株日進)、平野良太、横山直也(株千歳観光)

▽作業 瓦礫の撤去及び分別作業

今回参加した全員が東日本大震



作業場で記念撮影する第5陣のメンバーたち

てもらって本当に感謝しています」とのこと、今回の意義を感じる瞬間となりました。(岡田 亘)

長期滞在の人達に感銘

災でのボランティアは初めての経験でした。

作業は土に埋まった瓦礫を掘り起こし、その瓦礫の分別(瓦・建材・ガラス・鉄等に仕分け)でしたが細かい瓦礫が無数にあり難しく、時間ともっとたくさんの人員を必要とする作業内容でした。暑さは尋常ではなく、肉体的にはき

ついで、飲料用のクーラーボックスの必要を痛感しました。

遠方から個人で参加されている方や1週間、1か月以上滞在している方々が多く、猛暑の中での作業にもかかわらず辛い顔ひとつせず作業に取り組み姿勢に感銘を受けました。また、宿泊先の『下道荘』の方々には大変良くしていただきお世話になりました。

初めて被災地を訪れ、現状、復興にはまだまだ時間がかかると実感致しました。今後も一人でも多くの方々の参加が必要であり、業界においてもこの活動が継続的にそして活発に続くことを期待しております。(山本利和)

◀充実した活動を行った第6陣隊員たち



◀猛暑のなか、細かい分別に汗を流す